

経営にあたって

本校の教育目標

一人一人が「よく生きる」豊かな学園の創造

「共働・共励」 「共鳴・共感」

1 経営の基本的な考え方

生徒数708名、学級数25の全県一の規模を誇る中学校である。その生徒集団、教師集団の力を結集し、スケールメリットを生かして、生徒が生き生きと活動する、「元気な学校、元気の出る学校」を目指す。

また、生徒同士や生徒と職員、学校と保護者等の信頼関係を土台として生徒が互いに切磋琢磨し、一人一人が自己有用感をもってその個性や能力を発揮できる、温かくて豊かな学園の創造に努める。

さらに、校訓「よく生きよ」に向かって、合い言葉「共働・共励」「共鳴・共感」の精神をもち、生徒も教師も共に考え、共に行動しながら、これからの変化の激しい社会を生き抜くたくましい生徒を育てると共に、地域の活性化への貢献を目指す。

(1) 目指す学校像

- I 笑顔で過ごす、元気な学校、元気の出る学校
- II 確かな力、未来を生き抜く力を付ける学校
- III 生徒や保護者や地域に信頼される学校

(2) 目指す生徒像

- I 思いやりの心で他と関わることができる生徒 【優しさ】
- II 主体的に判断し、行動できる生徒 【かしこさ】
- III 自らの力で「一歩前へ」踏み出す生徒 【たくましさ】

(3) 目指す教師像

- I 生徒の成長をやりがいに、教育愛をもって生徒と共に歩む教師
～「共働・共励」「共鳴・共感」～
- II 授業で鍛え、他から学び、経験を力に変える教師
- III 生徒や保護者、地域に信頼される教師

2 育成を目指す資質・能力

- 「よく生きよ」を自ら問い、自分の考えを広げ、深め、表現しようとする態度
＜学びに向かう人間性・人間力＞
- 自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働（共働）しながら新たな考えを創造する力
＜思考力・判断力・表現力＞
- 実社会や実生活において、獲得した知識・技能を課題解決に生かすことができる力
＜知識・技能＞

3 本年度の重点

- (1) 「分かった、もう少し」で生徒の目が輝き、「見取り、価値付けた」で教師の目が輝く授業づくり
- (2) 「自他の命」を最優先に守り、安心安全で元気に学校生活を送るための生徒指導の充実
- (3) 教え、任せることを通して生徒の自主性・主体性を育み、学校の活性化に資する特別活動の充実
- (4) ふるさと教育を軸としたキャリア教育と大仙教育メソッドの推進
- (5) 職員の多忙化防止に向けた実効性ある取組の推進

4 具体的な取組

- (1) 生徒一人一人が学びに向かい、学んだ喜び、分かった喜びを実感できる授業づくり
 - * 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を目指し、「個別最適な学び、協働的な学び、ICTの効果的な活用」を通し、「分かった・できた」と、それを「見取った・価値付けた」が実感できる授業の実現に向けて、次の5点に重点的に取り組む。
 - ① 「学びの基本」「教えの基本」「共通実践事項の徹底」等、小中連携に基づく学習指導の充実
 - ② 教師のコーディネータ力の向上を柱とした教科を超えた研修
 - ③ 一人一台端末の積極的な活用が効果的な活用につながる研修
 - ④ 「授業参観ツアー（全校）」「ぶらり研（教科部）」による「他から学ぶ」日常的な研修
 - ⑤ 他校の授業研究会への積極的な参加、及び授業DVD等の活用による実践的な研修
- (2) 安心して安全に学校生活を送るための生徒指導の充実
 - 「元気な学校、元気の出る学校」を目指し、自他の命を最優先に守る、及びいじめ防止、不登校対策のため、次の3点に重点的に取り組む。
 - ① 自尊感情・自己有用感の醸成を目指し、絆づくり・居場所づくりの取組の充実を図る学級・学年経営と教科指導
 - ② 毎月の生徒アンケートや生活ノート（わかたけノート）の活用による生徒の実態把握と個別の面談等による教育相談の充実
 - ③ 情報モラル教室、小中連携ノーメディアディの実施等による情報モラル教育の推進
- (3) 生徒の自主性・主体性を育み、学校の活性化に向けた特別活動の充実
 - 全校が活力に満ちた一体感あふれる自主的・自治的な特別活動を展開することで、生徒の力による楽しい学校、元気な学校、元気の出る学校の創造を促す。
- (4) ふるさと教育を軸としたキャリア教育と大仙教育メソッドの推進
 - 総合的な学習の時間を中心として地域学校協働活動による地域人材を活用した教育活動（ようこそ地域の先生）を展開するとともに、中学校区教育協議会企画のあいさつ運動、ノーメディアディ、クリーンアップ活動、ビブリオバトル等の小中連携活動に取り組む。また、職場体験学習や上級学校訪問、地域住民、自衛隊、消防署との連携による地域合同防災訓練の実施等により、ふるさと教育を軸としたキャリア教育と大仙教育メソッドの一層の推進を図る。
- (5) 職員の多忙化防止に向けた取組の推進
 - 県の多忙化防止計画、及び市の業務量の適切な管理等に関する規則における目標達成に向けて、職員の意識改革を図るとともに、職員情報共有システム（Teams）や統合型校務支援システム（C4t h）の活用等による業務の効率化やノー残業ディの計画的実施等により、働き方改革に取り組む。